

電気通信大学 平成21年度シラバス

授業科目名	表象文化論		
英文授業科目名	Theory and analysis of Image cultures		
開講年度	2009年度	開講年次	3、4年次
開講学期	6、8学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-上級科目-テーマ別セミナー		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	久野 康彦		
居室	非常勤講師		

公開E-Mail	授業関連Webページ
kyuno@gmail.com	

<p>【主題および達成目標】</p> <p>日本とロシアの映画の鑑賞と音楽の観点からの考察</p> <p>1927年アメリカで史上初のトーキー映画『ジャズ・シンガー』が公開されて以来、映画にとって音楽は単なる映像の伴奏以上の役割を果たすようになった。この授業では、日本とロシアの映画を題材に、歌謡曲・ジャズ・ロックなどのポピュラー音楽の観点から映画を考察・分析してみる。</p> <p>授業では、音楽が中心的な役割を果たしている歌謡映画・音楽ドキュメンタリー映画だけでなく、それ以外の映画でも何らかの形で音楽が重要な意味を持っているものも採り上げる予定。</p> <p>考察の方向性としては、一方では、通常映画鑑賞時に無意識的に聞き流す映画の中の音楽に改めて意識的になることによって、印象批評あるいは技法的観点からの考察からは見えにくい映画の意味や構図を浮かび上がらせることを目指す。そして、他方では、映画に使われている音楽を追ってゆくことで、その映画が製作された時代の社会や音楽の状況を明らかにしてゆきたい。</p> <p>日本とロシアの映画・音楽を交互に鑑賞し考察することで、日本とロシアの文化の特徴に自覚的になることがこの授業の目標である。</p>
--

<p>【前もって履修しておくべき科目】</p> <p>なし</p>
--

電気通信大学 平成21年度シラバス

【前もって履修しておくことが望ましい科目】

なし

【教科書等】

参考書

北中正和「増補 にほんのうた」[平凡社ライブラリー](平凡社)

倉田喜弘「近代歌謡の軌跡」[日本史リブレット](山川出版社)

【授業内容とその進め方】

基本的に奇数回数目の授業である映画を鑑賞し、続く偶数回数目の授業で講師がその映画の解説を行う。後期全体を通じて映画は7本ほど鑑賞の予定。映画の上映時間が授業時間内に収まらない場合は、2回に分けることもある。

受講生はそれぞれの映画につき、鑑賞后感想を記したレポートを出してもらう(書式、分量等は自由)。レポートは映画鑑賞後時間が余った場合はその授業時間内に、時間がない場合は次の授業時に提出。

【授業時間外の学習(予習・復習等)】

特になし

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

評価方法

出席 35%

映画の感想レポート 35%

学期末のレポート 30%

評価基準

レポートについては、明晰な日本語・文意で自分の感想・意見を記していること。

【オフィスアワー：授業相談】

特に設けない。質問等は電子メールで受け付ける。

電気通信大学 平成21年度シラバス

【学生へのメッセージ】
授業の性格上、休みが多いと授業の理解に大いに支障が出るので、出席を重視する。毎回出席をとるので、その旨了解のこと。

【その他】
なし